

# 企画総務委員会会議録

平成31年2月15日(金)  
氷見市庁舎委員会室  
開会 午前 9時58分  
休憩 午前11時58分  
再開 午後 0時58分  
閉会 午後 2時02分

- 1 案 件 平成31年度予算案のうち企画総務委員会の所管に係るもの
- 2 出席委員 6名  
小清水委員長、稲積副委員長、越田委員、荻野委員、澤田委員、嶋田委員
- 3 委員外議員 積良副議長、穴倉議員、北議員、屋敷議員、萬谷議員、正保護議員、竹岸議員、松原委員、上坊寺議員、谷口議員
- 4 職務のため出席した事務局職員 坂本事務局長、新井事務局次長
- 5 説明のため出席した者の職、氏名  
林市長、小野副市長、金谷代表監査委員、藤澤企画政策部長、出戸企画秘書課長、天坂広報情報課長、戸田地域振興課長、京田新文化施設建設室長、高橋総務部長、川淵総務課長、大門財務課長、森川税務課長、澤会計管理者、山口監査委員事務局長、泉澤選挙管理委員会事務局長ほか関係職員
- 6 傍 聴 人 2人
- 7 経過及び結果
  - ・小清水委員長が開会を宣告し、市長挨拶の後、議事を進行した。
  - ・当局の説明を受け質疑応答を行った結果、説明を了承することとした（主な質疑応答は別紙のとおり）。

氷見市議会委員会条例第27条第1項の規定によりここに署名する。

平成31年2月15日

氷見市議会企画総務委員長

小清水勝則

# 平成31年2月企画総務委員会調査日程表

平成31年2月15日(金)午前10時

氷見市庁舎A棟2階委員会室

- ◎ 議会事務局 10:01  
・事業別明細書…………… P 9 5
  
- ◎ 会計課 10:05  
・事業別明細書…………… P 9 4
  
- ◎ 監査委員事務局 10:08  
・事業別明細書…………… P 1 1 9
  
- ◎ 企画秘書課 10:10  
・事業別明細書…………… P 1
  
- ◎ 広報情報課 10:45  
・事業別明細書…………… P 3
  
- ◎ 地域振興課 10:56  
・事業別明細書…………… P 5
  
- ◎ 新文化施設建設室 12:58  
・事業別明細書…………… P 8
  
- ◎ 選挙管理委員会事務局 13:16  
・事業別明細書…………… P 1 2 0
  
- ◎ 総務課 13:19  
・事業別明細書…………… P 1 0

【裏面へ続く】

◎ 税 務 課 13:28  
・事業別明細書..... P 1 5

◎ 財 務 課 13:53  
・事業別明細書..... P 1 2

(注) 一般会計における人件費（総務課を除く）に係る説明は不要です。

## 主な質疑応答

<p>企画秘書課 稲積委員</p>	<p><b>16 世界農業遺産認定推進事業費</b>について。気運の醸成は市民セミナーの開催だけでは難しいと考えるが、のぼり旗、ポスター等を活用しないのか。</p>
<p>出戸課長</p>	<p>のぼり旗等の啓発に係る予算は盛り込んである。来月には市の農業遺産の魅力を理解していただくバスツアーも企画したいと考えている。</p>
<p>稲積委員</p>	<p>のぼり旗等はいつまでに作るのか。</p>
<p>出戸課長</p>	<p>シンポジウム開催のタイミングに合わせ完成させたい。</p>
<p>稲積委員</p>	<p>タイミングを逃さないようにしっかり準備するように。 この農業遺産の認定に向けて、名城大学との連携は考えているか。</p>
<p>出戸課長</p>	<p>農業遺産認定申請には学術機関の意見書が必要であり、その分析から一緒に取り組んでいくことで名城大学農学部と話を進めている。</p>
<p>越田委員</p>	<p>農業遺産の農業と漁業について、前回と同じ取り組みで事業を進めるという理解でよいか。</p>
<p>出戸課長</p>	<p>現在、昨年6月の認定申請内容の科学的、歴史的根拠について検証をしているが、それを踏まえて検討していきたいと考えている。</p>
<p>越田委員</p>	<p>本市漁業の定置網は既に世界に発信されており、漁業のみであれば世界農業遺産の認定は取りやすいとの意見があるが、農業と漁業合わせて取り組むのか、また別々に進める考えはあるか。</p>
<p>出戸課長</p>	<p>氷見市の特徴は何なのかしっかり検討することが大切である。 他にはない仕組みということで、農業と漁業の一体的な仕組みが検証されるのであれば一体として申請できると考えている。</p>
<p>澤田委員</p>	<p><b>14 大学連携推進事業費</b>について。名城大学との連携にどのような成果を求め、目標年次を何時としているか。県立である氷見高校のカリキュラムにどのように取り入れるのか。</p>
<p>出戸課長</p>	<p>産業おこし、農業生産額の増、従業者数の確保が求める成果であるが、KPIの設定、目標の達成などを整理したうえで平成31年度から3年間の地方創生推進交付金を申請している。 氷見高校では、イノシシ肉の商品化やLEDを使った植物栽培の実用化</p>

	<p>について大学と共同研究を実施しているところである。</p>
澤田委員	<p>富山県が主導的に経営していく県立高校において氷見市がプログラムを実施し県がそれを支援するというのは変ではないか。</p>
出戸課長	<p>氷見高校は市唯一の高校であり、市としても積極的に連携、支援していくことが大切である。</p>
澤田委員	<p>あくまでも県が主体となってバイオなど先進技術を取り入れ教育の高度化を図る連携であれば理解できるが、農業所得アップに繋げることは無理ではないか。</p>
出戸課長	<p>今回のイノシシ肉、LED栽培は高校が考えたアイデアであり、それを大学と一緒に支援していくものである。あくまでも市はお願いする立場であり、最終的には氷見高校の方で判断されるものと考えている。</p>
澤田委員	<p>具体的な予算配分は。</p>
出戸課長	<p>名城大学氷見市連携推進センターエアコン整備に 2,677 千円、拠点施設整備も合わせた施設整備に 12,777 千円。産学官の連携による産業おこしとして 6,067 千円、氷見高校との連携で 1,426 千円、生涯学習、交流等で 179 千円計上している。</p>
澤田委員	<p>ソフト的なものはないということによいか。</p>
出戸課長	<p>大学の先生や学生が研究しやすい環境を整えることが、今後の連携を強化していくうえで大切であるとの考えで施設整備を最優先させていただいているが、産学官連携による産業おこしや氷見高校との共同研究、生涯学習等のソフト事業を入れている。</p>
嶋田委員	<p>平成 31 年度は、受け入れ体制の構築に係る大学生や高校生の交流の延べ人数をどれくらい見込んでいるか。</p>
出戸課長	<p>5つの研究室の来氷を想定しており、何回か来ていただくことになっている。棚田の研究、土壌の開発、イノシシ肉を研究している部署のほか新たな研究も入ってくる可能性がある。氷見高校からはイノシシ肉、LED栽培にそれぞれ 10 人、計 20 人程度みている。</p>
嶋田委員	<p>何回も氷見に来て馴染んでいただくとともに、氷見に新たな風を吹き込む人材を引っ張ってきてもらいたいが、如何か。</p>

出戸課長	交流を続け、氷見で農業を志す人を発掘できるように、31年度だけではなく、32年度33年度と地方創生推進交付金を使って取り組んでいきたい。
嶋田委員	連携において、企業とのかかわりは今後どのように考えているか。
出戸課長	大学とJAの間でハト麦での連携について話がされている。 現在、新たな産業となるような取り組みについて協議しており、大学、企業、団体の連携にしっかり取り組んでいきたいと思っている。
澤田委員	<b>12</b> ぶり奨学プログラム事業費について。奨学金の応募状況と見通しは。
出戸課長	ぶり奨学プログラム登録者は136人。帰氷したいが働き場はないかとの相談が多々あり、マッチングをしっかりやっていくことが大切である。
澤田委員	<b>16</b> 世界農業遺産認定推進事業費について。氷見の農業の現状を把握しているか。
出戸課長	この農業遺産は、農林水産業の大事な部分を遺し、活かしていこうという趣旨のものであり農業の経営とは趣旨が異なる。
澤田委員	農業の現状の把握なしで農業を語ることはできないと考えるが如何か。
出戸課長	農業の経営にかかる部分は、大学連携の中で取り組んでいきたい。
広報情報課	
嶋田委員	<b>1</b> 市民議会開催事業費について。市民議会の日程、大まかな流れは一昨年と同様に考えているか。
天坂課長	今回は当初予算計上ということで前回より3月早く、8月から11月での実施を予定している。
嶋田委員	前回の市民議会において、各議員の反応はどのようであったか。
天坂課長	活発な意見が出ていたと認識している。
嶋田委員	議会に過度の負担とならないよう行政と議会のバランスを考慮して進めてもらいたいが、どのように考えているか。
天坂課長	その時の反省を踏まえ、議会と相談しながら、参加者、市民から有意義な事業であったといわれるように実施したい。

稲積委員	<b>3 氷見魅力発信事業費</b> は、今年度で事業の目的が達成されたとの理解でよいか。
天坂課長	今年度で目的を達成するので終了するもの。
地域振興課 荻野委員	<b>11 地域おこし協力隊事業費</b> について。本日が地域おこし協力隊の募集締め切り日となっているが、現在の応募状況は。
戸田課長	問い合わせが5件あり、昨日現在で応募として届いているのは2通であるが、例年ぎりぎり届いているので期待している。募集人数に満たない場合は、再度募集をかけたいと考えている。
荻野委員	応募がなかった地域に対しては、全国に積極的な募集をかけるなどしっかりと手当てしてほしい。協力隊の活動の場として、どの地域でどのような活動が予定されているか。
戸田課長	募集人数に満たなかった場合は、当課職員や地域担当職員が地域に入ってサポートしていきたいと考えている。 活動地域としては八代、女良の2地域で、八代では自然薯、氷見牛等の農業振興、女良では棚田、虻が島等の地域資源を活用した地域活性化を目指すものであり、どちらも地域づくり協議会の設立も念頭においている。このほか、昨年応募がなかった十二町地域での協力隊、総合スポーツの推進員、林業の6次産業化も引き続き募集している。
越田委員	<b>17 空き家活用まちづくり事業費</b> の対象は住居のみか。
戸田課長	この事業は、移住者の多くが田舎の一軒家を希望していること、貸出側ではリフォーム代金がかかるという側面に着目して実施するものである。
越田委員	空き家物件を店舗として改修して貸し出すことも対象となるか。
戸田課長	住居を優先したいと考えている。
稲積委員	<b>16 氷見市まちづくりバンク事業費</b> について。まちづくりバンクの場所をI J U応援センターの事務所として活用することとなった経緯は。
戸田課長	I J U応援センターが年間35人の移住者の目標を達成できていないのは、事務所の場所が分かりにくい点もあるのではないかとということで、まちづくりバンクの場所への移転となった。
稲積委員	3月のプロポーザルはまちづくりバンクに入る方のプロポーザルか。

戸田課長	そのとおりである。
稲積委員	プロポーザルの内容次第では I J U 応援センターの事務所がまちづくりバンクの場所になるかわからないということか。
戸田課長	プロポーザルでは、まちづくりバンクの場所を事務所の場所として指定しているので、そこを使用するのが大前提となっている。
稲積委員	まちづくりバンクを利用したい方が他にもあると思うが、そういう方々を抜きにして I J U 応援センターの事務所として使うということか。
戸田課長	どのような方が応募されるかわからないが、事務所を移した方がより多くの方が訪れ、移住に繋がるのではないかと考えている。
稲積委員	今後、移住者の数が伸びなければまた立地場所の問題とされることが懸念されるが、場所を転々と変えるよりも、場所の周知という点で一か所に留まった方がよいのではないか。
戸田課長	外から来る方が、より入りやすいという点でまちづくりバンクへ移転するものであり、今後二、三年でまた移転ということは想定していない。
稲積委員	現移住センターは、空き家バンクに登録し、貸し出す予定とのことであるが、登録物件は移住者のみの利用を対象としているか、それとも市内在住者も対象となるか。
戸田課長	基本的には移住者の方の利用を対象としているが、市内の方に貸さないということではない。
越田委員	<b>27 危険老朽空き家対策事業費</b> については、何件見込んでいるか。
戸田課長	解体費用については 3 件見込んでいる。
越田委員	危険老朽空き家が借地上にある場合はどうなるか。
戸田課長	家屋と土地を合わせて引き受けるものである。借地の場合には、解体に係る上限 5 0 万円の補助の活用を検討いただきたい。
越田委員	危険老朽空き家が財産区所有の土地にある場合はどうなるか。
戸田課長	建物の解体は第一義的には所有者の責任で行ってもらうものであり、危険老朽空き家の判定があれば、解体に係る上限 5 0 万円の補助も検討して



	<p>いただきたい。</p>
越田委員	<p>土地が財産区所有の場合、財産区から市に土地を寄付するということになるのか。</p>
戸田課長	<p>この事業は、家屋と土地を合わせて引き受けるものであり、建物所有者と土地所有者が別の場合は難しいと考える。</p>
稲積委員	<p><b>24 北陸新幹線 2 次交通運行事業費</b>については、全額バス運行費の一部負担金か。</p>
戸田課長	<p>これは高岡市、氷見市、富山県で 700 万円ずつ協議会に負担金という形で支払っているもので、加越能バスの実際の運行経費の一部を負担するものである。</p>
稲積委員	<p>わくライナーのPR、周知活動に取り組んでいるか。</p>
戸田課長	<p>先日の乗降調査で、常連客にとってはかなり速達性がある手段となっており、初めての利用客の多くはウェブで存在を知ったことが明らかになった。今後も民宿等でのチラシ配布やウェブを活用して発信していきたい。</p>
稲積委員	<p>市内のみならず、関東圏出向宣伝時には、氷見への誘客のために、わくライナーのPRに取り組んでもらいたい、考えは。</p>
戸田課長	<p>北陸新幹線から氷見への直結というイメージでのPRを協議会にお願いするなど、普及に努めていきたい。</p>
荻野委員	<p><b>26 新交通システム導入検討事業費</b>について。今後のスケジュールと車両のイメージは。</p>
戸田課長	<p>5 月頃に有識者も含めて計画案を検討いただくとともに試乗会の開催も考えている。11 月頃に 10 日間程度の実証実験を経た後、翌年度に計画を策定したいと考えている。車両イメージは、ゴルフ場のカートであるが、自動ブレーキ等機能が向上したものとなっている。</p>
荻野委員	<p>公道を走るわけであるが、事故があった場合の対応は。</p>
戸田課長	<p>自動運転とはいえ必ず人が乗車する。事故があった場合の対応は今後の検討課題である。</p>
澤田委員	<p><b>8 自治振興費</b>の内訳は。</p>

戸田課長	220人余りの自治振興委員の報償費で10,248千円、会議等の会場借上料22千円。連合会の運営補助金954千円を計上している。
澤田委員	どのような手続きで委嘱しているか。
戸田課長	各自治会から提出される自治振興委員変更届の提出を受けて委嘱している。
澤田委員	自治振興委員の役割を認識してもらうための自治振興委員設置規則を新委員に配布しているか。また、委嘱状を出しているか。
戸田課長	規則は渡していないが、委嘱状は届けている。自治振興委員の役割については地域の様々な活動を通して理解いただいているものと考えている。
澤田委員	自治振興委員の役割が正確に理解されていない現状に対する見解と手当の算定基準は。
戸田課長	地域の活動は、自治振興委員なしでは考えられないのであり、皆さん地域のことを最優先に考えていただいていると認識している。報償費の基準は、均等割が200世帯以上は2万円、50世帯以上は1万7千円、50世帯未満は1万5千円で、戸数割が1戸あたり400円となっている。
澤田委員	自治振興委員の役割は、あくまで行政の中身を住民に周知することであり、地域の活動に携わることは本来の姿ではないと考えるが、如何か。
戸田課長	12地域活力施設等整備支援事業13持続可能な地域づくり支援事業ともに、地域全体で取り組んでいただくものであり、必ず自治振興委員が先頭に立って進めなければならないものではない。
<b>新文化施設建設室</b>	
越田委員	<b>2 新文化交流施設整備事業費</b> について。事業組み替えにより『公民連携』が付されていないが、単なる名称変更というとならえ方でよいか。
京田室長	公民連携という事業の趣旨に何ら変更はない。
越田委員	民間が運営する部分についての事業費は含まれないということによいか。
京田室長	市が支出する部分は、あくまでも公共棟施設整備に係る費用で、委託費は公共棟施設部分の管理運営計画策定に係るものである。
越田委員	ハード整備をした後、中に入る民間業者を公募するハード先行型の考え

	<p>方になるか。</p> <p>京田室長 必ずしもそうではない。民間の提案事業を合わせた複合的な整備を考え事業提案をしていただくものである。</p> <p>澤田委員 基本構想・計画等概略のわかる資料はないか。</p> <p>京田室長 昨年度策定のまちなかランドデザインの内容に沿って進めており、事業提案の中で具体案が示される。</p> <p>稲積委員 今回のプロポーザルにおいて該当なしという場合もあるか。</p> <p>京田室長 選定委員会において、基準に沿って判断されるものであり基準に合わないという場合もありうる。</p> <p>稲積委員 いいものをつくるためには工期が多少延びても構わないのではないか。</p> <p>京田課長 今回の公募において目安としての工期は示しているが、提案内容によっては要綱で定める工期が延びることもありうる。</p> <p>稲積委員 使い勝手の悪い施設にならないよう、ホールを如何に使っていくかソフト面を十分議論したうえでハードの整備をしていくことが肝要である。</p> <p>京田課長 整備事業着手に合わせて管理運営についての検討も進め、よりよい運営に繋げていきたいと考えている。</p>
<p>税務課</p> <p>荻野委員</p> <p>森川課長</p> <p>荻野委員</p> <p>森川課長</p> <p>荻野委員</p> <p>森川課長</p> <p>荻野委員</p>	<p>入湯税の積算根拠は。</p> <p>平成 30 年度実績を踏まえて積算している。</p> <p>近年減収傾向にあるが、平成 29 年度当初予算額は。</p> <p>決算額では、平成 27 年度 31,086,900 円、平成 28 年度 29,428,650 円、平成 29 年度 29,195,850 円となっている。</p> <p>事業主からの申告に対するチェックはどのように行っているか。</p> <p>前年、前々年の実績とのチェックを行っている。</p> <p>客観的な調査は行っているか。</p>

森川課長	人数の調査は行っていないが、温泉の取り扱いを止めた業者に対しては調査に入っている。
荻野委員	入湯税を申告納付している事業者の数及び温泉の取り扱いを止めた業者の推移は。
森川課長	事業者数は二十数箇所、昨年度止めた業者は1社である。
荻野委員	最近、沢山の人が氷見を訪れていると感じる中で、毎年、入湯税徴収にかかる人数が6千人から7千人くらい減少している。申告書の客観的な調査が必要と考えるがそれに対する取り組みは。
森川課長	可能な範囲で検討していきたい。
荻野委員	滞納繰越があるのはなぜか。
森川課長	申告されたものの納付が伴わなかった事業者であり、今は分割で納入してもらっている状況である。
荻野委員	入湯税に滞納が生じることは本来考えられないことである。金額の大小にかかわらず、チェック、指導をしっかりとしてほしい。(要望)
澤田委員	固定資産税について。急激な人口減少、地価公示価格の下落、土地取引が減少してきている状況の中、固定資産税は前年度比1,500万円余りの増となっているが、見込みの理由は。
森川課長	土地については地目変更等の要因により40万円余りの増であるが、増額の最も大きな要因は償却資産の増によるものである。
澤田委員	用途地域外の土地評価はずさんな面がある。現況に合わせた評価額のチェックが行われているか。
森川課長	固定資産税については3年に1回評価替している。郊外の土地についても鑑定に基づいた近傍評価となっている。
澤田委員	氷見市の評価額は、実勢価格よりも大分高い。不利益を被っているのは市民であり、注意深くやってほしい。
森川課長	土地家屋鑑定士とも状況を確認して資料の確認等行いたい。

財務課	
澤田委員	8 市有財産管理費の中身は。
大門課長	市有財産の管理に係る修繕料、借地料、草刈業務委託料等である。
澤田委員	法定外公共物の財産目録等の整備はどうなっているか。
大門課長	法定外公共物については、現在 53 冊の管理台帳で管理、対応している。
澤田委員	この管理費の中には、法定外公共物の積極的な利用、払い下げを促す費用があるべきと考えるが如何か。
大門課長	法定外公共物の払い下げについては、広報誌でも紹介しており、必要があれば予算計上で対応するものである。